

史料 石名坂村の生魚問屋一件

(一)

乍恐口上覚

1 文化二年(一八〇三)二月 久慈郡石名坂生魚問屋

開設に太田村故障申立てに付大里郡奉行所達
文化二年「太田村御用留」(常陸太田市文化課蔵)

石神御郡下石名坂村ニ而生魚問屋相立、是迄売買致候ニ付已来相止候様ニと右役所江御懸合之分ハ相止候筈ニ相成候処、尚又此上村方方見届人指遣、寄々心ヲ付否之儀御役所江可被申遣候

二月七日

菊池太一郎
加藤徳衛門

2 文化四(一八〇五)年五月 久慈郡太田村魚問屋の

那珂郡額田村外ニケ村魚問屋新建故障申立書

『茨城県史料 近世社会経済編IV』p.298
文化四年「太田村御用留」(常陸太田市文化課蔵)

(一)

石神御郡下額田村大和屋新三郎と申者、生魚問屋相建売捌、其外石名坂小衛門と申もの所へも荷付入売捌候由相聞候付、先達而も支配御役所ニも御懸合ニも相成候儀、又候此ほと荷物引請候敷ニ相聞、久慈村内大みかニ罷有候藤吉と申もの儀も同様新問屋相建候由ニ相聞候間、其村魚問屋相糺候ハ、右之境相訟可申候間、糺之上否之義可被申出候、以上

五月十七日

橋川長次郎
市村仁衛門

(二)

乍恐口上覚

一 此度額田村大和屋新三郎看問屋相立申候義御尋御座候所、右之者去寅年ノ南濱方買付荷物何駄ニ而も引受、下野辺迄送出、其外相对駄付荷物も諸濱方引請、棒手振り大勢御座候而一同ニ売捌申候間、磯・湊・平磯・前濱・磯崎辺方当所へ付込申候着荷物更ニ参不申候

一 石名坂小衛門義者、先達而石神御陣屋様より度々御吟味之上屹与被仰付候趣ニ承り及申候へ共、更ニ相止不申候様ニ承知仕候、其上棒手振り大勢御座候而我勝ニ看荷物引おろし、或ハ買付荷物と名付、数駄売買仕候、尚又濱方方当所売御城下へ差当送り状差添申候荷物石名坂にて買取申度存候へ共、馬方売不申候故、虚直ヲ付遣候故、当所へ参申候而も直段大キ相違有之売買不相成候故、当所も付出シ、部垂村又ハ近在へ参り引売散シ申候間、当所之売買ニ相成不申候、右虚直之義ハ石名坂棒手振共引おろし買取申候品ハ太田村中売捌申候事ニ御座候間、当所ニ看類一切無之候様ニ仕度存寄と相見へ申候

一 大三ヶ原藤吉義者棒手振商売仕候者ニ御座候、然ル所当所看町へ出不被申白人棒手振又ハ越後もの等大勢入込申候もの共へ、一膳飯等一ト賄四拾文ツ、ニ而幾人も相賄申候、尚又看荷物之儀ハ夜中ノ売買ニ御座候故、油代と名付駄付荷物よりハ廿四文ツ、かつき売よりハ拾式文ツ、口銭取申候、勿論藤吉・勝次郎と申もの兩人ニ御座候

右申上候通り北浜ハ大三ヶ原・石名坂ニて被押、南浜ハ額田村ニて被差留候而ハ、先年より上納仕候御益も更ニ上り不申候、年来肴問や仕来り申候間右益上納相減申候段何共奉恐入候、此度御糺ニ付右之趣御答奉申上候、以上

太田村

肴問や

仁兵衛

文化四年

卯五月

右生魚類石名坂・大三ヶ・額田村へ問や相立商売仕候由入御聞、村方生魚問や佐源次相尋候ハ、可相分旨被仰付候ニ付、佐源次相尋候所、前書奉申上候通り相違無之由御座候間奉申上候、以上

卯五月

惣役人印